

3. 企業業績

この章では、投資家の主な「ミクロ」の判断材料となる要因について「企業決算」「財務分析」「バリュエーション」の3項目で学びます。ここでいう「ミクロ」の判断材料とは、経済全体の動きではなく、個別企業（株式的に言うと個別銘柄）の業績を指しています。金融市場において企業決算や業界動向は「ミクロ情報」と呼ばれ、GDPや物価などの経済指標や経済政策といった「マクロ情報」に対して、個別の株式銘柄や業界単位の市場動向に大きな影響を与える指標です。

「企業決算」では個別企業が発表する企業決算の見方や内容、表現、「財務分析」では企業決算に基づいて会社の経営状態を分析する手法や指標について解説します。「バリュエーション」は、企業決算と株式相場との関係において企業価値がどのように評価されているか示す上で重要な概念です。

3-1 企業決算

企業決算で発表される「業績」は通常**results**と表現します（例えば、Our results in 2018 were～なら「当社の2018年度の業績は～」）。

企業が決算を発表する時期のことを「決算シーズン」と呼び、英語では一般的に**earnings season**という表現が使われます。**earnings**は通常、「利益」の意味になりますが、文脈により「決算」や「業績」を示す場合があります。

【例文1】

Earnings season is the period of time during which a large number of publicly traded companies release their quarterly earning reports. In general, each earnings season begins one or two weeks after the last month of each quarter (December, March, June, and September).

「決算シーズン」は多くの上場企業が四半期決算を発表する期間のことです。一般的に各決算シーズンは各四半期最終月（12月、3月、6月、9月）末日の1～2週間後から始まります。」

こうした決算情報は通常、企業から**アニュアルレポート (annual report)** や**プレスリリース (press release)** などの形で提供されます。

アニュアルレポートの中には当該会計年度の主要な**財務諸表 (financial statements)** として、一定期間における経営成績を表す**損益計算書 (income statement/profit and loss statement)**、一定時点における会社の財務状態を表す**貸借対照表 (balance sheet)**、一定期間におけるキャッシュの増減を示す**キャッシュフロー計算書 (cashflow statement)** などが掲載されています。

企業決算の数字の中で最も重要かつ基本的な情報は、損益計算書の中に記載されている**収益 (revenue)** とそこから全ての費用を差し引いた**当期利益 (net profit)** です。revenueは**売上高 (sales/sales revenue)** とほぼ同義ですが、業種によっては売り上げ以外の収益も生じるため、同義でなくなる場合があります。

損益計算書の中で、収益（売上高）が一番上に書かれているので**top line**、当期利益が一番下に書かれているので**bottom line**と呼んでいます。

【例文2】

The current quarter is expected to be affected by the disruptions from the hurricane, which could hurt both **top line** and gross margins.

「今四半期の業績はハリケーンによる物流混乱を反映したものになると予想されるので、**売上高**と売上総利益の数字に悪影響が及んでいる可能性もある。」

一般に、「**黒字 (利益) を出す**」ことは**make money**、「**赤字 (損失) を出す**」ことは**lose money**と表現されます。

4. 市場動向

4-1 市場の動き

市場における一日の取引 (session) を終了した時点の価格が終値 (close)。この時点の価格を前日 (前営業日) の価格と比べると最も基本的なマーケットの情報です。相場の変化を示す場合、終値を示す動詞の後に、「上下」「高安」を示す表現や価格を示す表現が置かれます。

終値の動詞には、end、finish、close、settleなどがあります。主な構文はend (finish、close、settle) + 「上下」「高安」を示す表現 + to (at) + 価格や「上下」「高安」を示す動詞 + 数字 + to end (finish、close、settle) + at + 価格などがあります。日本語では、ただ「上昇した」「下落した」という場合もあれば、「～高の～で引けた」「～安の～で終えた」のように終値であることを明確にする場合もありますが、どちらも意味は同じです。

相場の地合い (相場全体の雰囲気) を示す修飾語には、市場が堅調に推移 (上昇) していることを表すstrong、ほぼ横ばいに推移していることを表すsteady、市場が軟調に推移 (下落) していることを表すflatやweak、市場を示す指数の数字に高いものも安いものもある (「高安まちまち」) ことを示すmixedなどがあります。

【例文1】

U.S. stocks ended mixed on Wednesday amid the Federal Reserve's monetary policy announcement.

「水曜日の米国株式市場は、FRBの金融政策発表を受けて高安まちまちで引けた。」

取引の表現には、trade、sellなどがありますが、これらの動詞は「上下」の表現や価格を示す表現とともに投資対象を主語とする自動詞として用いられることが多く、通常は終値について前日比で「値を上げる (下げる)」「～となる」という意味になります。

終値と同じ文に同じ日の高値や安値を示す場合は、多くの場合、after節を使って「一時～したが～で引けた」のように表現します。こうした日中の値動きで、「一時～した」を指す動詞としては、touch、hit、reachなどがよく用いられます。また、通常のriseやfallなどの動詞にbrieflyやat one pointなどの修飾語句を加えて表現することもあります。

【例文2】

Silver retreated after trading as high as \$30.81 per ounce in early morning action. It touched a session low of \$30.15 per ounce and settled at \$30.41 per ounce, booking a gain of 1.7% for the week.

「銀相場は朝方の取引で一時1オンス=30.81ドルまで上昇したが反落し、一時1オンス=30.15ドルの安値をつけた後、30.41ドルで終了。週間ベースでは1.7%上昇。」

数値の後に置かれたor ~%はポイントの数字を割合に置き換えているので「または」「ないしは」のように選択肢として訳すのではなく、「〇〇円〇〇銭 (~%)」とカッコの中に入れた方がよいでしょう。

【例文3】

On Tuesday, the Dow Jones industrial average ended 68.72 points, or 0.55%, higher at 12,548.35.

「火曜日のダウ工業株30種平均は前日比68.72ドル (0.55%) 高の12548.35ドルで終了。」

進む、動くといった動きを表す意味の動詞もまた市場の状況を示す表現との組み合わせで相場の動向を示す表現としてよく用いられます。動きを示す動詞は、push、head、moveなど。同様に他動詞では「加える」を意味する

●投資情報サイトの掲載記事からの抜粋です。すべて和訳してください。

Keeping a Lid on Rates

It may be tempting to blame the Fed for low rates. However, its role—although powerful—is also limited to the very short end of the curve; the longer-maturity bond yields are much more market-driven. In addition, the Fed's actions are (or should be) made in reaction to economic conditions, and in relation to its objective to promote full employment and stable prices. If inflation is well below the Fed's policy target sweet spot of 2 percent, it's reasonable to expect the Fed to continue pursuing policy to reach that objective. After all, although high inflation is an often-cited economic risk, the absence of inflation (or deflation) can also be damaging.

If we can't fully blame the Fed, something else must be going on with bond prices, particularly longer-maturity bonds—something that relates to supply and demand. We believe there are several demand forces working to keep a lid on interest rates, despite the improving conditions of the past decade.

Demand from Foreign Buyers

In contrast to the impact of post-recession stimulus within the U.S. described above, the conditions are less rosy in other parts of the world. Europe, in particular, remains on wobbly ground. Unlike the U.S., where both monetary and fiscal policy tools have been used to reignite growth, Europe's strong austerity preference creates a reluctance to use deficit spending. In 2014, the failure of traditional measures to stimulate growth, combined with a less dynamic economy, demographic headwinds, and continued weakness in the banking system, led the European Central Bank (ECB) to embark on an aggressive and daring course.

It reduced short-term policy rates below 0 percent, with follow-on rate decreases moving the policy rate to negative 0.4 percent, where it stands today. This dramatic action was intended to provide a jolt to the system—if reserves were penalized with a negative interest rate, banks should be much more willing to lend.

(出典 : <https://captrust.com/diminishing-returns-the-incredible-shrinking-bond-yield/>)

●以下すべてを英訳してください。

1. 総務省が発表した12月の全国消費者物価指数（生鮮食品を除くコアCPI）は前年比0.1%低下し、3ヶ月連続で前年を下回った。
2. 財務省が発表した9月の貿易統計によると、自動車や自動車部品の需要が増加し、輸出金額は、前年同月比2.4%増を記録。9月の貿易黒字は3000億円（39億ドル）を記録している。
3. 債券相場は大幅に上昇。CPIが市場予想に届かなかったことが買い材料となった。長期金利は1.273%台と、約2週間ぶりに1.3%台を割り込んでいる。
4. 先週末に発表された米9月の消費者物価指数（CPI）は+0.4%で、食品、エネルギーを除くコア指数も+0.2%と、いずれも市場予想を下回っている。